

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 13 章 18～21 節＞

1 宣教師バラが取り上げた聖句を元の聖書の文脈の中で読む。

150 年前、日本人によって神様を礼拝する群れができた時、宣教師バラはイザヤ書 32 章 15 節を引用しました。ピッタリな聖句だなと思います。しかし、今日は、改革教会が大事にして来た聖書の読み方、すなわち、その聖句が出て来る文脈の中で読みたいと思います。この聖句の前 (9-14) では、戦いで悲惨な状況が訪れることが述べられ、この聖句の後 (16-20) では、神様が用意して下さっている正義、平和、休息が語られています。今のウクライナの状況を思わずにはおれません。

2 今礼拝で読んでいる聖書個所の御言葉に今日も耳を傾ける。

イエス様は、先週の礼拝で読んだ安息日に病の女を癒された出来事の後、たとえ話でその意味を次のように語られたのです。「女の癒しは世界の片隅で起こった小さな出来事だけれど、それは地に撒かれた極小のからし種が守りと安らぎの巣を鳥に与える大木になる、その始まりと同じなのだ。また、パン種を小麦粉にまぜても最初は分からないが、粉全体に行き渡った時に大きく膨れてその威力と成果が分かる、その始まりと同じなのだ」と。人の目には分からない神の支配の開始と、突然はつきりする神の支配の完成とその恵み、この二つのことを教えられます。

3 どんな時代が来ても、聖書の御言葉にしっかり聞いて生きる信仰を伝える教会を、これからもこの日本の地に築いていこう！

1 と 2 の聖書個所の御言葉から教えられることは何でしょうか。「これが問題だからこうしたらうまく行く」といった即効薬的な答は与えられませんね。しかし、このイザヤの預言によって主なる神様を信じて生き抜いた人々（そして死んでいった人々も）がおり、二千年前と 150 年前にも命をかけてキリスト者となった人々がおり、また今のウクライナの絶望的状况の中で信仰によって生きている人たちがいることも確かなのです。それは、イザヤを通して語られた神様の正義、平和、休息の到来の約束を信じた人々であり、キリストが語られた神の国の完成の時を信じて生きた人々です。私たちはその信仰を継ぐ者たちなのです。「死は人生の終末ではない。生涯の完成である」と語ったルターは、聖書の御言葉に深く傾聴する信仰に立ち返り、その中でこう言える信仰にたどり着いたのです。私たちもこれらの人々に続いて、この日本の地に、聖書にしっかり聞いて生きる教会をこれからも築き続けていきましょう！